

靈仙寺と靈仙三蔵法師

靈仙の山頂付近を経塚と呼び、古代の靈仙寺跡であると伝えられている。
きょうづか

靈仙山は白鳳九年(六八一)役の小角が修法所を構え開山。靈仙寺は、奈良
えんのおすめ

興福寺の末寺として、養老元年(七一七)泰澄の開基により毘盧舍那如来(大日如来)を本尊とし、修験の行者の聖地として栄えたという。
たいちよう びるしやなによらい

天平二十年(七四八)聖武天皇は坂田郡の田地七町八反を寄進、やかつて神護

景雲三年(七六九)宣教は山麓に松尾寺等七ヶ支院を建立した。
せんきよう まつおじ おきながにゆうまひと

靈仙三蔵はこの地の豪族息長氏丹生真人族の出とされ、幼くして松尾寺、靈仙寺に

て学び、十五歳、興福寺で得度。四十五歳、遣唐留学僧として入唐。長安、醴泉寺にて勉強に励んだ。時の憲宗皇帝の命を受け、『大乘本生心地觀經』の筆受
せんし けんそう ながくそう だいじようほんじようしつちかんきよう

並びに訳語の重責を果たし、日本人唯一人の三蔵の位を授けられた。

中国国内にて仏教弾圧が厳しくなり、五台山へ移り、難を逃れた。
ごた、さん なんだいれいきようし

天長四年(八二七)南台靈境寺にて望郷の念を抱きつつ没した。六十八歳であった。

靈仙は三蔵法師を生み育てた地であり故郷である。彼の人の切なる

想、を山頂をゆく白雲に偲びたい。

平成十三年 夏 靈仙三蔵 顕彰の会